

平成 24 年度第 3 回 これからの学術情報システム構築検討委員会議事次第

日 時：平成 24 年 11 月 6 日(火) : 15:00－17:00

場 所：学術総合センター 20 階実習室 1

出席者：配付資料参照

議事

1. 前回議事要旨（案）確認 (資料 1)
2. メタデータの最近の動向について (資料 2)
3. グループ別課題整理 (資料 3)
4. 今後の進め方 (資料 4)
5. その他

配付資料

委員名簿

1. 平成 24 年度 第 2 回これからの学術情報システム構築検討委員会議事要旨（案）
2. 書誌フレームワークと RDA
- 3－1. 「これからの学術情報システム構築検討委員会」課題整理【修正版】
- 3－2. これからの学術情報システム構築検討委員会・「全体」グループ・課題整理
- 3－3. これからの学術情報システム構築検討委員会・ERDB グループ・課題整理
- 3－4. これからの学術情報システム構築検討委員会・目録システムグループ・課題整理
- 3－5. これからの学術情報システム構築検討委員会・デジタイズグループ・課題整理
4. 今後のスケジュール（案）

これからの学術情報システム構築検討委員会委員名簿

氏 名	所属・役職	備考
佐藤 義則	東北学院大学 文学部 教授	委員長
栃谷 泰文	京都大学附属図書館 事務部長	
加藤 さつき	東京外国語大学 学術情報課 サービス係長	
久保田 壮活	東京大学附属図書館 総務課 主査	
和佐田 岳男	名古屋市立大学総合情報センター 学術担当主査	(欠席)
関 秀行	慶應義塾大学メディアセンター本部 課長	
荘司 雅之	早稲田大学図書館 事務副部長兼総務課長	
菊池 亮一	明治大学 学術・社会連携部 図書館総務事務長	
大向 一輝	国立情報学研究所 コンテンツ科学系 准教授／学術基盤推進部 学術コンテンツ課 コンテンツシステム開発室長	(欠席)
鈴木 秀樹	国立情報学研究所 学術基盤推進部 学術コンテンツ課長	
高橋 菜奈子	国立情報学研究所 学術基盤推進部 学術コンテンツ課 専門員	記録

平成 24 年度 第 2 回 これからの学術情報システム構築検討委員会 議事要旨

1. 日時：平成 24 年 8 月 24 日（火）10：00～12：00

2. 場所：国立情報学研究所 20 階 講義室 1

3. 出席者：

（委員）

佐藤 義則	東北学院大学 文学部 教授（委員長）
栃谷 泰文	京都大学附属図書館 事務部長
加藤 さつき	東京外国語大学 学術情報課 資料サービス係長
久保田 壮活	東京大学附属図書館 総務課 主査
和佐田 岳男	名古屋市立大学総合情報センター 学術担当主査
関 秀行	慶應義塾大学メディアセンター本部 課長
荘司 雅之	早稲田大学図書館 事務副部長兼総務課長
菊池 亮一	明治大学 学術・社会連携部 図書館総務事務長
大向 一輝	国立情報学研究所 コンテンツ科学系 准教授／学術基盤推進部 学術コンテンツ課 コンテンツシステム開発室長
鈴木 秀樹	国立情報学研究所 学術基盤推進部 学術コンテンツ課長
高橋 菜奈子	国立情報学研究所 学術基盤推進部 学術コンテンツ課 専門員

（陪席）

関川 雅彦	筑波大学附属図書館 副館長
尾城 孝一	国立情報学研究所 学術基盤推進部 次長
森 いづみ	国立情報学研究所 学術基盤推進部 学術コンテンツ課 副課長

<配布資料>

委員名簿

1. 平成 24 年度 第 1 回これからの学術情報システム構築検討委員会議事要旨（案）
- 2－1. 第 4 回連携・協力推進会議議事次第
- 2－2. これからの学術情報システム構築検討委員会規程
3. ERDB プロトタイプ構築プロジェクトの進捗報告
- 4－1. 本委員会の検討課題
- 4－2. 概念モデル
- 4－3. 「これからの学術情報システム構築検討委員会」課題整理
5. 今後のスケジュール（案）

4. 議事：

（1）前回議事要旨（案）確認

佐藤委員長より、資料 1 に基づき前回議事要旨（案）について確認があり、原案どおり承認された。

(2) 第4回連携・協力推進会議報告

鈴木委員より、資料 2-1、2-2 に基づき、本委員会規程が了承されたこと等の報告があった。

(3) ERDB プロトタイプ構築プロジェクトの進捗報告

佐藤委員長より、前回の議論および課題整理において電子リソースの管理について委員の関心が高いことが確認されたので、ERDB プロトタイプ構築プロジェクトの進捗状況について紹介する旨の案内があり、高橋委員より資料 3 に基づき、報告及び構築中プロトタイプのデモが行われた後、質疑応答、意見交換が行われた。

[進捗状況報告]

- ・今年度は ERDB（電子リソースの総合目録）のプロトタイプ構築をはじめめる。
- ・図書館の管理業務支援と利用者の情報アクセス支援を目的とし、電子リソース総合目録(ERDB)を構築する NII の事業。まずは、プロトタイプを構築することからプロジェクトを進めているところ。
- ・今年 4 月から、12 機関、JUSTICE が参加して活動開始。現在は参加大学の契約データ、KB データを投入し、プロトタイプ第 1 版リリースの段階。今後 CiNii Book 拡張機能、統計機能検証、業務フローのモデルケースとりまとめ等を進める予定。平成 26 年度後半に運用開始を目指す。

[デモ]

下記の 2 つのデモが行われた。

- ・パッケージ、書誌、契約情報それぞれから検索する ERDB プロトタイプ
- ・CiNii Books 検索結果から ERDB の契約情報を参照し、所属機関が契約しているタイトルのフルテキストへのリンクを表示する CiNii Books 拡張版

[質疑応答、意見交換]

- ・CiNii Books へのフルテキストリンク機能では、他機関の契約状況は参照できないのか？

→現在のデモ版では、自機関の契約情報のみ参照。他機関の情報を参照したい要望があればその時に考える。技術的には実現可能。

- ・他機関の情報も一覧できるファインディングリスト機能があるとよいのでは。

→機関により契約のヴァリエーション（walk-in user や ILL の可否など）がある。

大学図書館側の運用にも関わるので、そこについては本委員会で議論をしないといけない。意見調整をした上でサービスを展開すべき。

- ・パッケージやアグリゲータなど大手以外の小さな契約情報も登録が必須なのか？小さな契約情報こそ管理に手間がかかるので、共有できるとメリットがある。

→登録しなければいけないかどうかを、これから決めていかなければいけない。

- ・他機関の契約情報は参照できないのか？

→現在は、他機関からは参照できない。JUSTICE からの参照はできるようにすることを想定している。価格など、どこまで参照できるようにするのかを決めていかなければいけない。

- ・業務支援として使うには、他機関の情報も参照できないと不十分。

- ・現在 CiNii の検索結果に表示されているリンクリゾルバは表示されなくなるのか？

→表示させるか、させないかはどちらでも可。現在は、実現しやすい部分から構築している。

- ・目的が曖昧。契約情報の共有は、業務支援を目的とするのか？一方、利用者支援としても提供するのであれば、基本的な目的は何なのか？
- ・契約情報を中心とすれば、基本的な目的は、管理支援。しかし、今度どのように展開して実施に向かうのか。

→現状では各大学 OPAC のメンテナンスに手間がかかっているようなので、契約ファイルからダイレクトに利用者がアクセスできる環境を整備できれば、業務支援としてメリットになる。

- ・過去の契約情報、出版社やパッケージの変遷などの情報を参照できる仕組みがほしい。
- ・過去の情報は JUSTICE 側でも必要なデータだ。
- ・各大学が登録する情報をどれくらい透明性をもたせるのか？（他機関まで見せるのか見せないのかなど）という議論は行われているのか？

→現時点では機能に関わること以外の部分はほとんど議論していない。

検討する場合はプロトタイププロジェクトなのか、この委員会のような大きな枠組ですのか、今後の課題と考えている。

- ・これまで他機関に見せなかった契約情報を共有することで大きな力を生むと考えられる。本委員会で方向性を検討して実現できれば面白いものになる。
- ・出版社との契約に含まれる Non-disclosure agreement の取り扱いについても議論が必要。
- ・契約情報の共有が主目的とすると、JUSTICE での検討の事案となる。それを超えて利用者支援の部分にかかると検討は他の場になる。
- ・契約関係の把握は JUSTICE。それをユーザーにどう提供するかという話になるとこの委員会で議論しなければならない

（４） 本委員会の課題整理

佐藤委員長より、本委員会の検討課題について資料４－１に基づき説明があった。

- ・ミッションとしては、これからの学術情報システムについて将来構想を企画することである。
- ・今年度は個別課題の整理、組織体制の整備及び議論の場の整理。課題によっては先行して事業計画の立案(ERDB、NACSIS-CAT のデータ公開など)まで議論する。
- ・来年以降は事業計画の立案。実働組織の活動内容に対する助言・承認。

引き続き、資料４－２に基づき、本委員会で検討の対象とする資料について説明があった。

・学術情報として扱う資料を、管理責任の大小、稀少性の高低によって日用品としての出版物、貴重書・特別コレクション、オープンな Web 情報源、機関内で生産された資料に４分類したうえで、その全体に関わる大学図書館としては、これらの関係性を整理し、発見できる環境を用意していくことが今後の大きな課題になる。

・印刷体資料と電子情報資源の取り扱いの比較においては、従来の紙媒体の共同分担目録も引き続き重要だが、図書館を中心とした資源共有ではなく、新たな資源共

有の考え方を打ち出して連協協力を進めないといけない。

加藤委員から資料4-3に基づき、各委員からの課題の取りまとめについて説明があった。まとめ方については、各委員から挙げられた課題を、種別を大項目として「全体」、「ERDB」、「目録システム」、「デジタイズ」に分け、各課題に対して、想定する検討・承認の場と、想定される実働組織。更に求められる解決・実現までのスケジュールを短期～長期とした。

続いて、課題整理一覧について、種別ごとに各項目の内容について検討を行った。

「全体」について

- ・ ERDB は電子資料、目録システムは紙媒体資料を対象という分け方か？

→両方にかかるものもある。

- ・ ライセンス契約資料によるものが、ERDB という分け方もある。

OA ジャーナル、電子ブックなど必ずしもその枠で分けられないものもあるので、定義の仕方は議論の中で進めていければよいのでは。

- ・ 「デジタイズ」は本委員会の議論の対象からずれるのではないか

→議論の対象となる。遡及入力を今後どうするかを考える際に、メタデータだけでなくデジタイズもセットにするという考えかたもある。さらにデジタイズしたコンテンツを永続的に提供するにはどうしたらいいかという話にもつながる。

一つの大学だけで解決できる問題ではない。NDL との協力関係という話にも関わってくる。

- ・ NDL との協力関係について、佐藤委員長より以下のとおり紹介があった。

NDL サーチで公開しているデジタイズ資料 220 万件のメタデータの提供を受けた。大学図書館と NDL の重複状況、NDL でデジタイズされた資料のユニークさなどについてメタデータ間で調査する予定。HathiTrust についても、同様の調査をする予定。NDL が RDA 対応を予定している。NACSIS-CAT も今後 RDA の影響は避けて通れない。RDA の影響度評価についても NDL と NII 共同で取り組んだ方が得策だろう。

「ERDB」について

- ・ 重要なのは ERDB の範囲。ライセンス契約資料と考えるのか、電子情報資源と考えるのか。

→契約情報の共有を考えた場合に、ライセンス契約資料が基本と考える。

その他の、貴重書や特別コレクションなどは、「目録システム」で扱うのではないか。

→資料4-2の左上の枠「日用品としての出版物（ライセンス契約の資料、購入資料）」を主たるターゲットにするというのが基本ではないか。

貴重書などの電子化されたコンテンツについては、国文研データベース、漢籍データベースなどを活用してリンクさせていくというやり方もある。

→ERDB プロトタイププロジェクトでは、JJRNavi と連携協力しようとしている。

JJRNavi では国内のオープンなリソースも対象としている。ライセンス契約資料

に限らなくてもよいのではないか。

→優先度の問題だと思う。ライセンス契約資料や購入資料の方が優先度が高いと思う。

→OCLCのKBはこの部分も若干入る。日本のJ-StageのようなOAジャーナルなど。これに準じて、「OAジャーナルなども含めてERDBの所掌範囲に入れられる」としておけばよいのでは。

- ・フリーのリソースに比べて、古典籍DBや漢籍DBとの連携の方が、優先度が高い。国文研とどうしたらデータ連携して有効活用できるか考えて提案していたほうがよい。

→NIIと国文研は提携するベースがあるが、大学図書館と国文研の間には協力のベースはないのか？

→現状の古典籍DBの所蔵情報は古くて粗い。入っていない大学も多数ある。古典籍DBから流用入力するとした場合の考え方を整理していく必要がある。これも検討課題の一つとしていい。

→NDLや国文研などの関係機関との協力関係を構築していくという項目を課題の整理に含めてはどうか。

- ・KBの整備、コストの試算、GOKbの調査についてはどう考えているか？

→今年度はトライアル期間ということでSerialsSolutionsのデータを登録している。今後本格的な運用をする場合どれくらいコストがかかるのか。費用負担の方法について検討が必要。コスト負担については、NIIだけではなく大学図書館と共同で検討していく課題。

- ・ERDBの仕様の汎用性の確保については、確認しておかなければならない

→KBART準拠を前提に検討している。海外のナレッジベースと共通の土俵に乗ることは意識している。

- ・ERDBのニーズ調査

- ・目的、ユーザである大学図書館がそれにより何が得たいのか、など基本的なことははっきりさせないといけないのではないか。

→昨年度、いくつかの大学にはヒアリングを行い、その後プロジェクトに加わってもらっている。

- ・ERDBがなぜ必要なのか？

→狭義の契約情報の共有であれば明確な目的がある。利用者支援まで広げたデータベースを構築する意義がどこにあるのか。従来のCATは紙資料の共有があったが、電子情報資源の場合にはライセンス契約に縛られているので、情報の共有に意味がないのではという意見もある。

→全体の共有ということがなくても、各図書館の労力レベルだけで考えても、検索の利便性と契約事務の合理化というメリットがあると考えられる。

- ・契約データの収集あるいは統計部分についてはすでに実際に進められている話なので、本委員会では、基本的にはユーザへの提供の部分を中心に議論していったらどうか。契約データから派生して出てくる書誌データについて、どのように扱っていくかということをごこのテーマとしていきたいがどうか。

→契約データの収集提供部分については、今年度はプロジェクトで、来年度以降実

働部隊が必要としているが、実際には NII 側で運用するのか、本委員会側となるのか？

→契約データの収集部分は JUSTICE が関わる部分が多いと考えていたが？

→今後の進め方としては、①本委員会として ERDB 全体を対象とするが、今年度は、契約情報部分については現在進行しているプロトタイププロジェクトの成果の報告を受けることとし、来年度以降の計画については本委員会が関わっていく。

②契約部分と書誌データ部分と分け、書誌データの全体的な発見環境や利用者へのサービス提供に関わる部分は本委員会が所掌し、契約部分は JUSTICE を中心とする考え方の2つの選択肢がある。

→本委員会のミッションが「これからの学術情報システム」の検討なのであるとするならば、全体のデザインを考えるのは本委員会しかない。その中で ERDB を位置づける必要がある。

→結論として、①の方針とすることとする。プロジェクトの来年度以降の位置付け等については、本委員会で審議させていただく。

契約部分については JUSTICE の協力を得る必要がある。

JUSTICE の本委員会への関わりについては、今年度プロジェクトを終えた後検討する。

「目録システム」について

- ・目録システムの定義としては、貴重書、特別コレクションの電子化されたものも含むとする。
- ・取りまとめ案では、目録システムに関する全範囲を網羅している。本委員会の対象としては広すぎるのでは。

→委員会本体ですべて議論するのではなく、WG を設置したり、別組織での検討を委嘱してもよいのでは。本意委員会では振り分け方を考えるということによりと思う。

→研修、遡及入力事業の再編なども含まれるのはどうか？

→現在が一番の課題は、NACSIS-CAT について意思決定する場がないこと。この委員会がその場になってほしい。これを個別の問題に落としていった時に、研修や、遡及入力の対象となるという考え方。

→何らかのところで議論、提案してもらい、本委員会で承認するという想定。

RDA への対応などについても同様。

- ・ LinkedData への対応、データの公開について。海外データの活用する際には、当然国内データの公開も同時に考えないといけない。

→「全体」の【メタデータ】提供方針の作成。所有権の整理として検討する。

「デジタルイズ」について

- ・ 永続性の確保について検討する。

- ・ CLOCKSS については、NII、JUSTICE で取り組んでいる。

→JUSTICE 版元提案説明会でも参加館に説明するほか、CLOCKSS 事務局長との協議の場も設ける。

→日本からの参加館がまだ少ない、CLOCKSS への発言力を高めるためにも参加館の増加が必要。

・NDL との連携協力は不可欠である。もう少し協力のパイプが必要。

→NII と NDL、大学図書館と NDL とのそれぞれ協力のためのルートが別々になっている。

→本委員会として、NDL との協力は当然と捉えてよいと思う。

以上の意見等をもとに課題を整理、これに沿って、今後の検討を進めていくこととする。

今後のスケジュール

次回の委員会開催は10月から11月を予定。内容は、課題のまとめ、課題のための枠組み（組織・スケジュール）の検討をする。

進め方としては、おおまかな課題ごとに担当委員を決めて、まずは課題をわかりやすく文章化するところから始めて、課題のまとめをすることとしたい。

佐藤委員長より、各課題の担当委員について ML で提案することとなった。

ERDB プロトタイプ構築プロジェクト中間報告会(9/27 予定) についての情報は、次回委員会前に各委員に送付することとなった。

以上

書誌フレームワークとRDA

東北学院大学

佐藤 義則

平成24年度第3回これからの学術情報システム構築検討委員会

(平成24年11月6日)

目録構築／提供の変化

- 図書館界を超えたメタデータ利用
 - 発見のための多様なプラットフォーム (Google, Amazon, Open Library,...)
 - 流通過程におけるメタデータ利用 (ONIX, Amazon)
- Linked Open Data (LOD)
 - W3C (World Wide Web Consortium) Library Linked Data Incubator Group 最終報告 (2011.10)
 - LC, Europeana, Cambridge U., Harvard U., OCLC,...
 - New York Times, BBC, Nature,...
 - DBpedia, GeoNames,...
 - CiNii,...
 - OCLC – WorldCatのデータを[Schema.org](http://schema.org)形式で公開 (加えて、Dewey, VIAF and FAST headingsへのリンク) ODC-BY
 - ✓ ダウンロード用ファイル (250以上の所蔵館を持つ書誌データ、120万件 = 8,000万トリプル)

LCの新たな書誌フレームワーク

- 2008.1 書誌コントロールの将来に関する米国議会図書館ワーキンググループ最終報告書 “On the Record”
- 2010.7 – 2011.3 RDAの検証
 - 2011.6 検証結果と勧告 -> 2013.1以降の採用
- 2011.10 *A Bibliographic Framework for the Digital Age* --- MARC21からLODへの移行の宣言
- 2012.1 ALA Midwinter Meeting で移行計画の概要説明
- 2012.5 LODのためのモデリングおよび移行計画をZepheria社に委託

LCのLOD採用の影響

- 各国国立図書館への波及
 - 英国、カナダ、ドイツ、その他
 - NDL – 平成24年度書誌調整連絡会議(10/12開催)において方針表明(RDAと新書誌フレームワーク)
- 未確定要素
 - たんなる交換用フォーマットの変換から、書誌データ作成方式およびシステムの全面的再構築まで、さまざまな形態をとり得る
 - ✓ 9月発表の資料*を見る限りは、再構築の可能性を含んでいるようだが、未だ確定ではないとのこと

* Sally McCallum, "Bibliographic Framework Initiative Approach for MARC Data as Linked Data," (September 13, 2012) [Powerpoint].

<http://www.loc.gov/marc/transition/>

LOD化のメリット

- データ品質の向上と作業の効率化： 著作、場所、人物、出来事、主題、その他に対する識別子の利用による、信頼できる情報源からの補足データとのリンク形成によって、あるいは図書館ではこれまで作成できなかった粒度の外部データとのリンク形成によって
- データの発見と利用可能性の向上： 図書館の目録データとDBpedia、GeoNames、BBC、New York Timesといった他の領域のサービスとのリンク形成、あるいは実験のためのデータセット、データ処理に使用されたモデルとのリンク形成によって
- 図書館のウェブ上での存在の強化： データ利用、再利用からもたらされる機関の可視性の向上によって
- 専用ソフトウェアからの解放： RDFやHTTPの活用により、より一般的なツールの利用の道が開かれることによって

(引用元：「W3C Library Linked Data Incubator Group最終報告書」)

LOD対応の課題

- ❖ LODのメリットを享受するためには、対応するデータセットの公開が前提となるのは当然 → ライセンス問題
- 1. データ形式の策定とこれに対応するシステム整備
- 2. データの同定識別のための識別子の設定および管理
 - 特に、典拠データ、件名データ
- 3. 重複データの排除のための(海外を含む他機関との)連携
- 4. データの権利関係の定義(CC0 or CC-BY?、参加機関との調整)
- 5. NIIと大学図書館の双方における、目録作成／検索機能提供の役割の再定義

LODベースの発見システム

- Open Library
- The Data Hub
- Freebase
- Archives Hub

※各委員の記載をグルーピングして「種別」「事項」として整理し、「方向性の検討/承認の場合(案)」「想定される実働組織(案)」「優先度(案)」を追加

※「方向性の検討/承認の場合(案)」での「本委員会(承認)」は、実働組織に調査・検討、材料集め等を依頼し、委員会では方針や事業の決定や承認を行う、という考え方で記載

※修正、コメントは赤字で記載

種別	事項	委員名 (敬称略)	方向性の検討/承認の場合 (案)	想定される 実働組織(案)	優先度 (案)	担当者
全体	本委員会の任務と作業範囲の明確化(事業計画の作成がゴールなのか?)	和佐田	本委員会(確認)	作業内容により、既設組織への依頼、またはWGの設置	短期	
全体	ロードマップの作成 ※優先順位を踏まえて整理	荘司	本委員会(検討)		中期	
全体	「総合的発見環境」の定義	荘司	本委員会(検討)		中期	
全体	【総合的発見環境】電子情報資源に係るILLやDDS	NII	本委員会(承認)		長期	
全体	【総合的発見環境】コンテンツ発見基盤として、ERDBとNIIサービス等との統合利用環境の整備(GoogleBooksとの連携など、どこまで利用者向サービスを広げるのか?)	加藤	本委員会(承認)	NII	中期	
全体	【メタデータ】提供方針の策定 ・Linked Open Dateへの対応	NII、加藤 佐藤	本委員会(検討)	NII	短期	
全体	【メタデータ】所有権の整理(作った者とは限らない)	荘司	本委員会(検討)	NII	短期	
全体	【協力体制】大学図書館とNIIの協力体制の確立 ・課題検討の場の確立、実働部隊の確保、研修制度の見直し	NII、加藤	連携協力推進会議		中期	
全体	【協力体制】NDL等との協同関係の構築	関	本委員会(提案)	NII	長期	
ERDB	ERDBの目的、用途の明確化 ・電子的資料の所在(契約)図書館情報DBの構築 ・NACSIS-ILLシステムとの連携による資源共有 ・大学図書館での電子情報資源の管理業務支援	関 栃谷 栃谷 加藤	本委員会(検討)		短期	
ERDB	目的・用途に適った、最も効果的な実現方法の検討(ERDBのロードマップ作成) ・JUSTICEや、参加館の情報源を活用し、データ整備にかかる費用・労力を最小化	関 関、加藤	本委員会(承認)	WG設置	短期	
ERDB	持続可能性の確保(大学図書館業務の負担ではなく、業務省力化につながる仕組み)	関	本委員会(検討)		中期	
ERDB	ERDBのニーズ調査 ※ERDBプロジェクト参加機関へのヒアリング調査はNII実施済み	和佐田	本委員会(承認)		短期	
ERDB	収録範囲の検討(および優先度づけ) ・有償資源(有償のEJ, Ebook) ※まずは、契約系を対象とする ・OpenAccess Journal ※範囲に入れてよい(やれるならやってみる、程度から) ・貴重書等の電子版等一定品質が有るもの	栃谷 栃谷、加藤 栃谷、加藤 栃谷、加藤	本委員会(承認)	WG設置	短期	
ERDB	【メタデータ】書誌単位 ・同じタイトルでも、提供元が異なる場合(Book・ジャーナルとも) ・同じタイトルでも、巻冊が異なる場合(Book)	栃谷、加藤	本委員会(承認)	WG設置	中期	
ERDB	【メタデータ】書誌粒度 ・雑誌レベル・図書レベル ・論文レベル・章レベル	栃谷、加藤	本委員会(承認)	WG設置	中期	
ERDB	メタデータの記述文法の検討 ・レコード形式 NACSIS-CAT MARC21 ONIX ?	栃谷	本委員会(承認)	WG設置	中期	
ERDB	電子と紙のメタデータの扱いの確立 ・雑誌書誌単位(変遷判断基準)、初号主義vs最新主義 ・図書出版物理単位の考え方(ebookの「出版物理単位」?)	NII、栃谷 栃谷 栃谷	本委員会(承認)	WG設置	中期	
ERDB	媒体が異なる資料間の相互関係のつけ方、ベンダーが異なる場合の相互関係づけ ・EJと紙雑誌、Ebookと紙図書 ・ベンダーが異なる同じ著作	栃谷	本委員会(承認)	WG設置	短期	
ERDB	NACSIS-CATの既存データの調整	栃谷、 荘司	NII	NII	中期	
ERDB	KBデータの入手(外部KB・MARCの購入交渉)	NII	NII、JUSTICE	NII、JUSTICE	短期	
ERDB	KBの調査(どういうデータがどこから提供されるか、入手できるのか。そのカバレッジ) ・外部データ提供への働き掛け(特に、国内) ・外部データの限界とその対応方法の検討(EJの出版社変更、出版社の消滅、等々) ・独自に追加または新規作成すべきデータの洗い出しと作成(分担)方法 GOKbの調査 ※KB構築のデータとして利用できるかどうか、など	栃谷、加藤 栃谷 栃谷 栃谷、加藤 NII	本委員会(承認)	WG設置	短期	
ERDB	大学からのデータ提供の成否	NII	本委員会(旗振り)		中期	
ERDB	KB整備にかかるコストの試算 ※本番運用に向けた試算および負担のあり方	NII	NII・JUSTICE	NII、JUSTICE	短期	
ERDB	ERDBの仕様の汎用性の確保(将来的に国外システムとのリンケージが確保できるよう、一定の標準に準拠したものに) ※プロトタイププロジェクトでも意識して設計している	関	本委員会(承認)	プロトタイププロジェクトorWG設置	中期	
ERDB	大学(及びJUSTICE)と協力した運営体制の確立	NII、加藤	本委員会、連携・協力推進会議(検討)		中期	
ERDB	電子情報資源の統計情報	NII	本委員会(承認)	NII、JUSTICE	中期	
目録システム	NACSIS-CAT/ILLの意思決定 一委員会の不在(課題の検討、決定プロセスの確立) ※目録システムの最も重要な案件	NII、加藤	本委員会、連携・協力推進会議(検討)		中期	
目録システム	NACSIS-CAT/ILLの理念の再考	NII、加藤	本委員会(承認)	WG設置	中期	
目録システム	共同分担目録方式の見直し	NII、加藤	本委員会(承認)	WG設置	中期	
目録システム	NACSIS-CAT/ILLのシステムの再編 ・データ構造の見直しのシュミレーション ・CATPプロトコル見直しのシュミレーション	NII 佐藤、NII 佐藤	本委員会(承認)	WG設置	中期	
目録システム	システム構成(クラウド or 現在と同じ or 両者混交)、および現行NACSISからの移行	荘司	NII	NII	中期	
目録システム	書誌品質の再定義	NII、加藤	本委員会(承認)	WG設置	中期	
目録システム	メタデータ・フォーマットの検討 ⇒ERDBから移動	荘司	本委員会(承認)	WG設置	中期	
目録システム	1コンテンツに対していくつのメタデータが必要か? ⇒ERDBから移動	荘司	本委員会(承認)	WG設置	中期	
目録システム	メタデータはどこ(上流、中流、下流)で、誰(日本、世界)が作るのか? ・上流(コンテンツ作成者、ユニークコンテンツ所有者)、中流:取次(?)、下流:図書館 ・日本:NDL or 大学(→ NII)、世界:OCLC, LC or Publisher PDAへの対応	荘司	本委員会(承認)	WG設置	中期	
目録システム	RDAへの対応 ※RDAに対応した場合の影響評価など。NDLとの協力が必要	NII	本委員会(承認)	WG設置	中期	
目録システム	貴重図書、特別コレクション等の電子版への対応 ※日本古典籍総合目録データベースや全国漢籍データベースとの協力	栃谷、加藤			中期	
目録システム	サービスレベル(SLA)の相互確認	NII	本委員会、連携・協力推進会議(承認)	NII	中期	
目録システム	目録にかかわる研修の再編	NII、加藤	本委員会、図書館連携作業部会(承認)?	WG設置	中期	
目録システム	遡及入力事業の再編(遡及入力事業の継続有無)	NII	図書館連携作業部会(検討)	NII	中期	
目録システム	NACSIS-CATの今後(国外DBとの互換性など)	関	本委員会(検討)		長期	
目録システム	国外の日本語資料の情報基盤作りに対して、日本としてどう関わるのか?	関	本委員会(検討)		長期	
デジタル	既存資料の電子化の意義と効果の検証	NII	本委員会(承認)	WG設置	中期	
デジタル	和書、和雑誌の電子化	関	本委員会(提案)		長期	
デジタル	デジタル情報は、永続性に欠ける状況である(長期にわたり参照することが困難)	菊池	本委員会(提案)		長期	
デジタル	デジタル情報を長期保存・提供できるシステムの構築 ・マークアップデータとして作成・保存・提供(=参照)できる仕組み、またはマークアップ以外の保存方式の検討 ・永続性確保(CLOCKSS、JAIRO Cloudの可能性、NDLとの協力も必要) ※CLOCKSSとは、NIIとJUSTICE協力を進めている状況	菊池 菊池 佐藤	本委員会(提案)		長期	

これからの学術情報システム構築検討委員会
「全体」グループ・課題整理

1. 目的・意義
2. 事業計画
3. 諸課題
 - 3-1. 総合的発見環境
 - 3-2. 電子的コレクション
 - 3-3. メタデータのライセンス
 - 3-4. 関連機関との協力体制

1. 目的・意義

〔事項1〕本委員会の任務と作業範囲の明確化（事業計画の作成がゴールなのか？）

〔提案者〕和佐田

〔方向性の検討/承認の場合（案）〕本委員会（確認）

〔想定される実働組織（案）〕作業内容により、既設組織への依頼、またはWGの設置

〔優先度（案）〕できるだけ早期（済み？）

＜課題と方向性＞（前回委員会で議論した事項なので、確認のうえ承認とする）

- ・ 前回委員会で議論したように、本委員会の役割は「これからの学術情報システムについて将来構想を企画すること」であり、今年度は個別課題のその検討体制についての整理を行う。ただし、ERDB、NACSIS-CATのデータ公開といった緊急度の高い課題については、事業計画の立案まで踏み込んで議論を行うこととする。
- ・ また、来年度以降は具体的な事業計画の立案と実働組織の活動内容に対する助言・承認を予定する。

2. 事業計画

〔事項2〕ロードマップの作成 ※優先順位を踏まえて整理

〔提案者〕荘司

〔方向性の検討/承認の場合（案）〕本委員会（検討）

〔想定される実働組織（案）〕なし

〔優先度（案）〕平成24年度中

＜課題と方向性＞

第3回委員会の議論を踏まえて案を作成し、第4回で検討する。

3. 諸課題

3-1. 総合的発見環境

〔事項3〕【総合的発見環境】「総合的発見環境の」の定義（対象範囲の明確化）

利用者へのサービス内容

〔提案者〕 荘司、加藤

〔方向性の検討/承認の場合（案）〕 本委員会（検討）

〔想定される実働組織（案）〕 NII

〔優先度（案）〕 中期

＜課題と方向性＞

- ・ 本委員会において、総合的発見環境の対象範囲を明確化（例えば、一般的なウェブ上の学術関連情報資源をどこまで組み込むのか）したうえで、総合的発見環境の構築について連携・協働会議に提案を行う（期待される効果、必要性等についてのまとめが必要）
- ・ その際に、ERDBの対象範囲（ライセンス資料に限定するか、e-booksをどの程度包含するか）を見据え、そこから漏れる範囲をどのように扱うか（例えば、目録システムへの入力）についても検討する

〔事項4〕「総合的発見環境」の定義

〔提案者〕 荘司

〔方向性の検討/承認の場合（案）〕 本委員会（検討）

〔想定される実働組織（案）〕 なし

〔優先度（案）〕 中期

＜課題と方向性＞

前記〔事項3〕に吸収して議論

3-2. 電子的コレクション

〔事項 5〕 ~~【総合的発見環境】電子情報資源に係る ILL や DDS~~

→ 【電子的コレクション】大学図書館及び NII 等の電子的コンテンツの整備と利用

〔提案者〕 NII

〔方向性の検討/承認の場合（案）〕 本委員会（検討）

〔想定される実働組織（案）〕 なし

〔優先度（案）〕 中期（平成 25 年度）

<課題と方向性>

- ・ 標題変更
- ・ 電子情報資源の ILL や DDS は、電子的コレクションの整備と一体として検討されるべき事項であると考えられるため、事項の標題を「大学図書館及び NII 等の電子的コンテンツの整備と利用」と変更する
- ・ 共同利用を前提とした大学図書館の電子的コンテンツ（コレクション）の形成／整備について、例えば、NII-REO（電子ジャーナルアーカイブ、人文社会科学形電子コレクション）をどのように拡大するか、他の JUSTICE の契約情報資源をどのように扱うべきか、電子的な ILL や DDS をどのような方式で提供するか等について検討する

3-3. メタデータのライセンス

〔事項 6〕 【メタデータ】知的所有権の整理、提供方針の策定、Linked Open Data への対応

〔提案者〕 NII、荘司、加藤、佐藤

〔方向性の検討/承認の場合（案）〕 本委員会（検討）

〔想定される実働組織（案）〕 NII

〔優先度（案）〕 短期（平成 24 年度内）

<課題と方向性>

- ・ 〔提案〕 目録の書誌レコードの多くは、さまざまな MARC に由来しており、個々の書誌レコードについてどの参加館がどの程度の貢献を行ったかを特定することは不可能である。このため、NACSIS-CAT の書誌レコードについては、NII および各参加機関が知的所有権を主張せず、パブリック・ドメインとして扱うことを原則としてはどうか。また、関連する NACSIS-CAT の所蔵レコードは、書誌レコードに付随して作成されたものであり、一体となって利用されることから、扱いは書誌レコードと同様にしておくことが望ましいと考えられる。
- ・ 上記提案の基本的方向性について了承が得られれば、さらに細部を含めて議論したうえで委

員会案を作成し、参加機関に対しパブリック・コメントの形式で意見を募り、反対がなければ同意が得られたものとして扱うといった方式も想定される（できるだけ早期に）。

〔事項〕【メタデータ】所有権の整理（作った者とは限らない）

〔提案者〕 荘司

〔方向性の検討/承認の場合（案）〕 本委員会（検討）

〔想定される実働組織（案）〕 NII

〔優先度（案）〕 短期

＜課題と方向性＞

前記〔事項 6〕に吸収

3-4. 関連機関との協力体制

〔事項 7〕【協力体制】大学図書館と NII の協力体制の確立 ~~（課題検討の場の確立、実働部隊の確保、研修制度の見直し）~~

〔提案者〕 NII、加藤

〔方向性の検討/承認の場合（案）〕 連携協力推進会議

〔想定される実働組織（案）〕 未定

〔優先度（案）〕 中期

＜課題と方向性＞

- ・ 標題一部変更
- ・ 協力体制の確立に向け、大学図書館と NII との間で学術情報システムに関する課題を検討・決定する場を明確に位置付けるために、今後の検討の方式について議論する。なお、本委員会では、個別の案件について議論するのではなく、大学図書館等と NII の全体的枠組みにおいて実働する人材を組織化する方策について検討する。

〔事項 8〕【協力体制】NDL 等との協同関係の構築

〔提案者〕 関

〔方向性の検討/承認の場合（案）〕 本委員会（提案）

〔想定される実働組織（案）〕 NII

〔優先度(案)〕 長期

＜課題と方向性＞

- NDL と NII の間では、検索システム間でのリンクや、RDA、Linked Open Data への対応等の実務面での協力は進みつつあるが、さらに共同して歩調を合わせた活動を展開するために必要な事項等について随時議論を行うこととする。また、国文学研究資料館、国立民族学博物館等の間の協力関係についても同様とする
- 同時に、上記の担当者レベルでの議論・情報交換と併行して、できるだけ早期に、関係者（国立国会図書館、国文研、民博等）との間で今後の課題や認識に関する議論を行う場を設定することが必要であり、平成 25 年度には少なくとも予備的な会合を持つことを目指す

これからの学術情報システム構築検討委員会
ERDB グループ・課題整理

事項間の関連性を踏まえて、大枠として以下のとおり仕分けをしました。事項番号は、課題整理一覧での並び順です。

1. ERDB の目的・意義
 - 1-1. 目的 ー事項 1
 - 1-2. ニーズ ー事項 4
2. ERDB の事業計画にかかる課題
 - 2-1. 事業計画の策定 ー事項 2
 - 2-2. ロードマップ ー事項 2
 - 2-3. 体制の整備・持続可能性 ー事項 3, 11
3. ERDB のシステムの諸課題
 - 3-1. 全般 ー事項 10, 5
 - 3-2. データ ー事項 6, 7, 8
 - 3-3. 機能 ー事項 12, 13

【ERDB】

1. ERDB の目的・意義

1-1. 目的

〔事項 1〕 ERDB の目的、用途の明確化

〔提案者〕 関， 栃谷， 加藤

〔方向性の検討/承認の場合（案）〕 本委員会（検討）

〔想定される実働組織（案）〕

〔優先度（案）〕 短期

＜課題と方向性＞

- ・ 電子情報資源の資源共有による図書館サービスの向上，大学図書館での電子情報資源の管理業務の改善のために，電子的資料の契約図書館情報のデータベース構築が喫緊の課題である。
- ・ これを解消するために構築に着手した電子リソース管理データベース（ERDB）の目的，および用途を明確化する必要がある。大学図書館と NII が目的を共有し，共同構築する。
- ・ [現状]NII では，下記のような目的をもったものとして，プロトタイプ構築プロジェクトを開始している。

①利用者の情報アクセス支援

電子および紙の学術情報に利用者をより迅速かつ的確にナビゲートする。

②図書館の管理業務支援

図書館での電子リソース管理に必要なデータの共有を図り，業務の標準化を実現することによりコスト削減を図る。

1-2. ニーズ

〔事項 4〕 ERDB のニーズ調査

〔提案者〕 和佐田

〔方向性の検討/承認の場合（案）〕 本委員会（承認）

〔想定される実働組織（案）〕 なし

〔優先度（案）〕 短期

<課題と方向性>

- ・ ERDB に対する利用者のニーズ，図書館のニーズを調査する必要があるが，これについては，NII がすでに平成 23 年 3 月の参加館アンケート調査，および，平成 23 年 10～12 月に 11 大学へのヒアリング調査を実施した。この結果にもとづき構築を開始し，開発のフェーズにおいても，プロジェクトチームからフィードバックを得ている。

2. ERDB の事業計画にかかる課題

2-1. 事業計画の策定

〔事項 2〕 最も効果的な実現方法の検討 ~~（ERDB のロードマップ作成）~~

〔提案者〕 関、加藤

〔方向性の検討/承認の場合（案）〕 本委員会（承認）

〔想定される実働組織（案）〕 WG 設置

〔優先度（案）〕 短期

<課題と方向性>

- ・ 目的用途に適った最も効果的な実現方法を検討し，事業計画を立案する必要がある。立ち上げ時の進め方、その後の維持方法の確立，また各館の既存の図書館システムとの関連、求める質の線引き、タイムラグの解消、財源などが考慮すべき課題である。
- ・〔現状〕 ①NACSIS-CAT とは別システムとする ②検索等の相互連携が可能なシステムとするという考え方のもと，平成 24 年度はプロジェクトチームでプロトタイプの構築を行っている。

来年度以降も継続して進める。

2-2. ロードマップの策定

[事項 2] ~~最も効果的な実現方法の検討（ERDB のロードマップ作成）~~

[提案者] 関、加藤、栃谷

[方向性の検討/承認の場合（案）] 本委員会（承認）

[想定される実働組織（案）] WG 設置

[優先度(案)] 短期

<課題と方向性>

- ・ ERDB は長期にわたって整備してくことを想定し、何を優先して取り組むか、緊急度の高いものは何かを勘案し、段階的に構築するためのロードマップを作成する。
- ・ [現状]プロジェクトチームで大学図書館と NII が共同して、平成 26 年度後半のリリースまでを見通した全体のロードマップのたたき台を検討している。

2-3. 体制の整備・持続可能性

[事項 3] 持続可能性の確保

[提案者] 関

[方向性の検討/承認の場合（案）] 本委員会（検討）

[想定される実働組織（案）] 本委員会（検討）

[優先度(案)] 中期

<課題と方向性>

- ・ 持続可能性を検討するに際しては、システムにかかるコスト、データ整備にかかる費用と労力、大学図書館における業務負荷、組織体制を含めた検討が必要である。
- ・ JUSTICE や参加館の情報源を活用し、データ整備にかかる費用・労力を最小化していく。
- ・ 大学図書館業務の負担ではなく、業務省力化につながる仕組みとなることが望ましい。持続可能な業務フローを視野に入れる必要がある。
- ・ ERDB について研修を行うことで、大学図書館への周知、安定運営のための人材育成を図ることも必要である。

[事項 11] 大学(及び JUSTICE)と協力した運営体制の確立

[提案者] NII, 加藤

〔方向性の検討/承認の場合（案）〕 本委員会、連携・協力推進会議（検討）

〔想定される実働組織（案）〕 本委員会（検討）

〔優先度（案）〕 中期

<課題と方向性>

- ・ ERDB を将来的に維持していくためには、KB の維持管理と契約情報アップロードにおいて、大学図書館と NII の連携協力は不可欠である。システムの構築と同時に運営体制を整備する。

3. ERDB のシステムの諸課題

3-1. 全般

〔事項 10〕 ERDB の仕様の汎用性の確保

〔提案者〕 関

〔方向性の検討/承認の場合（案）〕 本委員会（承認）

〔想定される実働組織（案）〕 WG 設置

〔優先度（案）〕 短期

<課題と方向性>

- ・ ERDB は、将来的に国外システムとのリンケージが確保できるよう、一定の標準に準拠したものでなければならない。
- ・ [現状]プロジェクトチームで、KBART を意識しつつ、データベースのスキーマを設計している。GOKb や KB+も KBART を採用しているので、将来的なデータの連携は確保できる。利用条件についても ONIX/PL を視野に入れている。

〔事項 5〕 収録範囲の検討（および優先度づけ）

〔提案者〕 析谷，加藤

〔方向性の検討/承認の場合（案）〕 本委員会（承認）

〔想定される実働組織（案）〕 WG 設置

〔優先度（案）〕 短期

<課題と方向性>

- ・ ERDB の対象とする範囲を有償資源に限るのか、オープンアクセスのコンテンツまで広げるのか、あるいは電子ジャーナルか電子ブックも含むのか等を検討し、優先順位をつけて構築する。

- ・ [提案]第2回の委員会で、契約した有償資源を最初のターゲットとするが、オープンアクセスコンテンツも範囲に入れ、試験的に取組むということを議論した。
- ・ [提案]当面は電子ジャーナルから始めるが、電子ブックについても将来的に対応できるように検討する。

3-2. データ

[事項6] 電子と紙のメタデータの扱いの確立

[提案者] 栃谷、加藤、NII

[方向性の検討/承認の場合(案)] 本委員会(承認)

[想定される実働組織(案)] ~~WG設置~~ 受け皿新設?

[優先度(案)] 短期

<課題と方向性>

- ・ 電子情報資源の書誌については、紙媒体の資料の書誌とは異なる点があり、両者の整合を視野にいれつつ、どのようなメタデータを付与すべきかが課題である。次のような諸点を検討する。

①書誌単位

同じタイトルでも提供元が異なる場合、あるいは、同じタイトルでも巻冊が異なる場合や、雑誌の変遷・図書の出版物理単位など、書誌単位の整理

②書誌粒度

雑誌レベル・図書レベル・論文レベル・章レベルでのメタデータの記述文法

③関連付け

媒体が異なる資料間の相互の関連付け、提供元が異なる場合の相互関係づけ。書誌の名寄せ。

④レコード形式

MARC21, ONIX, RDF, NACSIS-CAT の形式等を検討し、データの流通を勘案した最適のレコード形式。

- ・ [現状] 電子情報資源の書誌について調査をすすめつつ、NIIにおいて、ELS, JST, Serials Solutions, JJRNav, NACSIS-CAT のデータについて、識別子を介した関連付けを検討している。

[事項7] KBデータの調査と入手

[事項9] KB整備にかかるコストの試算

[提案者] 栃谷、加藤、NII

〔方向性の検討/承認の場合（案）〕 本委員会（承認）

〔想定される実働組織（案）〕 WG 設置

〔優先度（案）〕 短期

＜課題と方向性＞

- ・ ERDB の中核となる KB（ナレッジベース）について、どういうデータがどこから提供されるか、その入手可能性やカバレッジについて、調査する。独自に追加または新規作成すべきデータの洗い出しと作成（分担）方法も検討する
- ・ 国内の KB については、データ提供元への働き掛けや連携協力をし、国内 KB の整備を行うことが重要である。
- ・ 海外の KB については、外部データの限界とその対応方法の検討を考慮しつつ、データ提供元からの購入交渉を行う。
- ・ GOKb や JISC の KB+等、KB 構築のデータとして利用できるかどうか、あるいは将来的なデータ交換の可能性の調査を行う。
- ・ EJ の出版社変更、出版社の消滅等々への対応等、KB の維持管理に係る人的コストが大きな課題となることが予想される。大学図書館と NII で協力し、かつ、外部データを有効に活用したモデルを検討し、本番運用に向けた試算および負担のあり方を検討する。
- ・ [現状] NII で KB 提供元との交渉を開始している。合わせて、プロジェクトチームで GOKb や JISC の KB+等調査を進めている。
- ・ [現状]国内 KB の構築のために、NII の ELS をはじめ、JST, NDL 等とデータ提供範囲、提供方法について協議をすすめている。

〔事項 8〕 大学からの契約データ提供の成否

〔提案者〕 NII

〔方向性の検討/承認の場合（案）〕 本委員会

〔想定される実働組織（案）〕 WG 設置

〔優先度（案）〕 中期

＜課題と方向性＞

- ・ 大学図書館の契約データを ERDB にアップロードするモチベーションを維持できる設計をするとともに、大学図書館と NII の協力体制を確立することが寛容である。
- ・ 契約データの提供にあたっては、大学間で相互に参照できる範囲や、参照してよいユーザーについて検討を要する。コンソーシアムとしての活動の強化と個別大学の制約条件とのバラ

ンスをとる必要がある。

- ・ 本格運用開始にあたっては、広報・研修体制が重要になる。
- ・ [現状]プロトタイプでは、図書館システムや ERMS からインポート・エクスポートが可能な API を整えるとともに、標準的な業務フローを想定したインターフェースを用意する。
- ・ [現状]プロトタイププロジェクトにおいて、JUSTICE 参加館の利便性を考慮した業務フローや統計機能の検討を行っている。

3-3. 機能

[事項 12] 電子情報資源の統計情報

[提案者] NII

[方向性の検討/承認の場 (案)] 本委員会 (承認)

[想定される実働組織 (案)] ~~NII~~-JUSTICE, WG 設置

[優先度 (案)] 中期

<課題と方向性>

- ・ 電子情報資源の利用状況をコンソーシアムが把握するために、統計情報の整備が必要である。これにより、JUSTICE の価格交渉力強化に資することを念頭に検討する。各大学においても同様に、利用実態を把握し効率的な購入タイトルの選定を可能にする統計機能を検討する。
- ・ [現状]プロジェクトチームで、360Counter や Swets 等の商用ツールのトライアルを行いつつ、統計ツールに必要な機能の要求仕様を検討している。

[事項 13] 電子情報資源の資源共有

[提案者] 加藤， 栃谷

[方向性の検討/承認の場 (案)] 本委員会 (検討)

[想定される実働組織 (案)] 当面なし

[優先度 (案)] 長期

<課題と方向性>

- ・ 電子情報資源 (有償分) の資源共有については、NACSIS- ILL に連携するのか、DDS を前提に独自構築するのか等さまざまな方法が有りうる。利用者の情報アクセスの向上策について検討を行う。

- ・ [現状]ERDB プロトタイプにおいては、ILL 条件も含むライセンス情報を保持し、それらのデータを外部に提供することを想定し設計を行っている。

2012/10/31 最終更新

これからの学術情報システム構築検討委員会
目録システムグループ・課題整理

目録システムについては、事項間の関連性を踏まえて、大枠として以下のとおり仕分けを行いました。事項番号は、課題整理一覧の目録システム内での並び順です。

1. NACSIS-CAT/ILL の諸課題
 - 1-1. 意志決定の問題 ー1、13
 - 1-2. 理念と運用の見直し ー2、3
 - 1-3. 書誌に関する問題 ー6～9、11
 - 1-4. システム構成・再編 ー4、5
 - 1-5. その他の事業ー14、15
2. 貴重図書、特別コレクション等の電子版の利用環境の改善 ー12
3. 「これからの日本の学術情報基盤」にかかる中長期の課題 ー16、17
4. その他 ー10

【目録システム】

1. NACSIS-CAT/ILL の諸課題

1-1. 意志決定の問題

〔事項1〕 NACSIS-CAT/ILL の意思決定 ー委員会の不在（課題の検討、決定プロセスの確立）

〔提案者〕 NII、加藤

〔方向性の検討/承認の場（案）〕 本委員会、連携・協力推進会議（検討）

〔想定される実働組織（案）〕 なし

〔優先度（案）〕 中期

＜課題と方向性＞

- ・ NACSIS-CAT/ILL の参加機関は、その規模や機関種別が多様であるが、NACSIS-CAT/ILL の諸課題を解決するための、NII と参加機関を包含する課題検討・意思決定の場がないために、迅速な対応が難しい状況である。
- ・ NII と大学図書館との協定による連携・協力の枠組みに基づき、連携・協力推進会議のもと、意思決定を行う体制を整える。
なお、検討にあたっては、連携・協力推進会議の構成組織に入らない参加機関（公共図書館等）についても考慮する。

〔事項 13〕 サービスレベル (SLA) の相互確認

〔提案者〕 NII

〔方向性の検討/承認の場合 (案)〕 本委員会、連携・協力推進会議 (承認)

〔想定される実働組織 (案)〕 NII

〔優先度 (案)〕 中期

＜課題と方向性＞

- ・ NACSIS-CAT/ILL のサービスは、NII が現実に運用可能な範囲で提供されているが、参加機関との間に明確な申し合わせがない状況である。利用時間や災害時の対応など、サービスレベルについて改めて NII と検討して明確化し、NII と大学図書館との協定による連携・協力の枠組みに基づき合意を行う。これにより、コスト面も含めた全体最適化に向けての運用が可能になる。

1-2. 理念と運用の見直し

〔事項 2〕 NACSIS-CAT/ILL の理念の再考

〔事項 3〕 共同分担目録方式の見直し

〔事項 8〕 1 コンテンツに対していくつのメタデータが必要か？

〔事項 9〕 メタデータはどこ (上流、中流、下流) で、誰 (日本、世界) が作るのか？

〔提案者〕 NII、加藤 (事項 2～3)、荘司 (事項 8～9)

〔方向性の検討/承認の場合 (案)〕 本委員会

〔想定される実働組織 (案)〕 WG 設置

〔優先度 (案)〕 中期

＜課題と方向性＞

- ・ NACSIS-CAT/ILL の諸課題の中でも、重要事項として、理念・運用に関わる問題提起が行われている。例えば、参加機関の書誌作成能力差の拡大、目録品質の低下、書誌レコード調整の負担増は、基本理念である「共同分担目録方式」の限界の現れとも考えられる。
- ・ 共同分担目録方式の見直しを含め、システム全体での書誌作成・書誌コントロールの能力維持と業務負荷の軽減を可能とする運用体制を検討する。
- ・ 検討にあたっては、NII と大学図書館との協定による連携・協力の枠組みに基づき、持続的な運用を可能とする制度設計を行う。
- ・ 外部データの活用、参加機関の役割区分の設定や書誌作成に対するインセンティブモデルの導入などを含め、持続的運用に資するしくみを積極的に検討する。

1-3. 書誌に関する問題

[事項 7] メタデータ・フォーマットの検討

[事項 11] RDA への対応 ※RDA に対応した場合の影響評価など。NDL との協力が必要

[提案者] 荘司（事項 7）、佐藤・NII（事項 11）

[方向性の検討/承認の場（案）] 本委員会

[想定される実働組織（案）] WG 設置

[優先度（案）] 中期

<課題と方向性>

- ・ NACSIS-CAT においては独自の書誌フォーマットを採用しているが、一方で、各国 MARC や図書館コミュニティ以外とのデータ交換が困難であったり、国際的な目録規則の変化に立ち後れるなどの課題が顕在化しており、NACSIS-CAT 方式の見直しも含めた検討が必要である。
- ・ 目録情報の国際流通への対応としては、NACSIS-CAT の RDA への対応について具体的な検討に着手すべきである。まずは NACSIS-CAT への影響評価について調査・検討を行う。なお、RDA については我が国での対応は NDL が先行しており、NDL へ協力を要請し進めていくことが必要である。

[事項 6] 書誌品質の再定義

[提案者] NII, 加藤

[方向性の検討/承認の場（案）] 本委員会

[想定される実働組織（案）] WG 設置

[優先度（案）] 中期

<課題と方向性>

- ・ NACSIS-CAT で維持すべき書誌品質のレベルについて、従来は書誌の重複率を下げるということを最も重視してきた。また、記述の正確性を重視する一方で、典拠コントロールについては必須ではなかった。今後は、現在のウェブ上の他の情報資源との連携をし、目録データを流通させるという視点を加味しつつ、書誌品質を再定義することは検討に値する。

1-4. システム構成・再編

[事項 4] NACSIS-CAT/ILL のシステムの再編

[事項 5] システム構成（クラウド or 現在と同じ or 両者混交）、および現行 NACSIS からの移行

[提案者] 佐藤、NII（事項 4）、荘司（事項 5）

〔方向性の検討/承認の場合（案）〕 本委員会

〔想定される実働組織（案）〕 WG 設置

〔優先度(案)〕 中期

＜課題と方向性＞

- ・ NACSIS-CAT/ILL はシステム稼働より既に 25 年を経過しているが、データ構造と作成基準の基本は一貫し、根本的な改変は行われておらず、システムそのものの最適化が遅れている。以下に記載する項目を中心とし、現システムでの技術的課題を整理し、対応を検討する。
 - ・ データ構造の見直しのシュミレーション
 - ・ CATP プロトコル見直しのシュミレーション
 - ・ 将来のシステム構成（クラウド化への対応の是非も含む）
 - ・ 上記を踏まえた、現 NACSIS の調整・移行に関する検討

1-5. その他の事業

〔事項 14〕 目録にかかわる研修の再編

〔提案者〕 NII、加藤

〔方向性の検討/承認の場合（案）〕 本委員会、図書館連携作業部会（承認）？

〔想定される実働組織（案）〕 WG 設置

〔優先度(案)〕 中期

＜課題と方向性＞

- ・ NACSIS-CAT/ILL に関わる研修は、e-learning 化などの取り組みも行われているが、基本的には講習会を開催するという開催方式や、操作者全員に受講を義務付けるという方針には大きな変更がないまま現在にいたっている。以下に記載する項目を中心に、見直しを検討する。
 - ・ 目録システム講習会のあり方（回数・内容・対象者）
 - ・ NACSIS-CAT 講師の養成
 - ・ CAT/ILL WS の再編
- ※ILL システムは図書館連携作業部会にて不開催が決定事項となったため記載せず
- ・ 検討にあたっては、NII と大学図書館との協定による連携・協力の枠組みに基づき、持続的な運用を可能とする制度設計に配慮する。
 - ・ 検討にあたり、NACSIS-CAT/ILL 以外の研修を含めた包括的な調整が必要であれば考慮する。

〔事項 15〕 遡及入力事業の再編（遡及入力事業の継続有無）

〔提案者〕 NII

〔方向性の検討/承認の場合（案）〕 図書館連携作業部会（検討）

〔想定される実働組織（案）〕 NII

〔優先度（案）〕 中期

＜課題と方向性＞

- ・ 遡及入力事業の中止は図書館連携作業部会の決定事項となったため、課題からは取り下げ

2. 貴重図書、特別コレクション等の電子版の利用環境の改善

〔事項 12〕 貴重図書、特別コレクション等の電子版への対応

〔提案者〕 栃谷、加藤

〔方向性の検討/承認の場合（案）〕 なし

〔想定される実働組織（案）〕 なし

〔優先度（案）〕 中期

＜課題と方向性＞

- ・ 様々な機関で貴重図書や特別コレクション等の電子化が進められているが、公開が構築機関単位であるため、機関リポジトリにおける JAIRO や CiNii Articles のように、横断的な検索ができず、貴重な資料へのアクセスが不自由な状況である。
- ・ NACSIS-CAT と連携のとれる形で、該当資料のメタデータを横断的に検索可能な仕組みを検討する。具体的には、日本古典籍総合目録データベースや全国漢籍データベース等の既存サービスとの協力を視野に入れる。（専用 DB の構築は検討しない）

3. 「これからの日本の学術情報基盤」にかかる中長期の課題

〔事項 16〕 NACSIS-CAT の今後（国外 DB との互換性など）

〔事項 17〕 国外の日本語資料の情報基盤作りに対して、日本としてどう関わるのか？

〔提案者〕 関

〔方向性の検討/承認の場合（案）〕 本委員会（検討）

〔想定される実働組織（案）〕 なし

〔優先度（案）〕 長期

＜課題と方向性＞

- ・ 「これからの日本の学術情報基盤」を考える上で中長期的に見据えておくべきこととして、

NACSIS-CAT の今後の国外展開、および、世界における日本語資料の情報基盤整備（特に逐次刊行物のナレッジベース）のあり方について検討する。

※特に後半の内容について、第3回会議において関委員の意見も伺って調整する。

4. その他

〔事項 10〕 PDA への対応

〔提案者〕 荘司（事項 10）

〔方向性の検討/承認の場（案）〕 本委員会

〔想定される実働組織（案）〕 WG 設置

＜課題と方向性＞

- ・ 主に電子書籍の選定に関わるものと捉えるならば、NACSIS-CAT/ILL はもとより、目録システムの課題になじむか？とも考えられ、取り扱いについて第3回会議において調整したい。

以上

これからの学術情報システム構築検討委員会
デジタイズグループ・課題整理

1. 目的
2. 電子化
3. 長期保存

〔事項1〕既存資料の電子化の意義と効果の検証

〔提案者〕NII

〔方向性の検討/承認の場合（案）〕本委員会（承認）

〔想定される実働組織（案）〕WGの設置

〔優先度（案）〕中期

＜課題と方向性＞

- ・NDL 所蔵資料デジタル化事業、Google Books、HathiTrust 等先行プロジェクトの検証。
NII・大学図書館への適用可能性と技術的、制度的課題の洗い出し。
- ・「目録システム」の[遡及入力事業の再編]の検討との方向性を調整しながら進める。
- ・Shared Print の実現可能性の検討。

〔事項2〕和書、和雑誌の電子化

〔提案者〕関

〔方向性の検討/承認の場合（案）〕本委員会（提案）

〔想定される実働組織（案）〕なし

〔優先度（案）〕長期

＜課題と方向性＞

- ・〔事項1〕の検討を踏まえ、既存資料の電子化されたコンテンツと新たに発行される電子化コンテンツとの持続可能な設計を検討する。
- ・和書、和雑誌それぞれについて、コンテンツ電子化の主体、プラットフォームのパターンを想定、NII・大学図書館での収集、運用のイメージを明確化する。前提として、NDL との協同の可能性を追求する。
- ・フォーマットの統一。
- ・日本語の商用電子書籍の普及に向けた、大学図書館側の支援体制の検討

[事項3] デジタル情報は、永続性にかける状況である（長期にわたり参照することが困難）

[提案者] 菊池

[方向性の検討/承認の場合（案）] 本委員会（提案）

[想定される実働組織（案）] なし

[優先度（案）] 長期

<課題と方向性>

- ・[事項4] に吸収して議論

[事項4] デジタル資料を長期保存・提供できるシステムの構築

- ・マークアップデータとして作成・保存・提供（＝参照）できる仕組み、またはマークアップ以外の保存方式の検討
- ・永続的確保(CLOCKSS, JAIRO Cloud の可能性、NDL との協力も必要)

[提案者] 菊池、佐藤

[方向性の検討/承認の場合（案）] 本委員会（提案）

[想定される実働組織（案）] なし

[優先度（案）] 長期

<課題と方向性>

- ・永続性確保のための課題を明確化し対策を検討。
- ・商用電子書籍コンテンツのデータアーカイブの仕組みを検討。出版社・ベンダー側からのデータ移転。
- ・ビックデータ分析手法の検討？（マークアップ以外の保存方式への対応として）
- ・デジタル情報の保存と提供のための標準化動向の評価・検討。例えば JATS など。

今後のスケジュール(案)

資料 No. 4

回次	日時	検討内容	その後のアクション
第1回	平成24年6月7日	顔合わせ, 委員会のミッションの設定	連携・協力推進会議に報告
第2回	平成24年8月24日	課題の洗い出し, 整理	
第3回	平成24年11月6日	課題のまとめ 解決のための枠組み(組織・スケジュール)の検討	学術コンテンツ運営・連携本部に報告
第4回	平成25年1月	本年度のまとめ	連携・協力推進会議に報告 学術コンテンツ運営・連携本部に報告

【参考】平成24年度 会議開催予定

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学術コンテンツ運営・連携本部								第1回 (11/27)				第2回 (予定)
図書館連携作業部会			第1回 (6/18)				第2回 (10/22)				第3回 (予定)	
連携・協力推進会議				第1回 (7/20)							第2回 (初旬)	
これからの学術情報システム構築検討委員会			第1回 (6/7)		第2回 (8/24)		第3回 (11/6)			第4回 (予定)		
ERDBプロトタイプ構築プロジェクト		キックオフ (5/31)				中間 報告会 (9/27)			最終 報告会 (12/21)			
大学図書館コンソーシアム連合運営委員会(JUSTICE)		第1回 (5/15)		第2回 (7/20)			第3回 (10/29)			第4回 (中旬)		
国公私大学図書館協力委員会				第1回 (7/27)				第2回 (11/16)				
国大図協		理事会 (5/18)	総会 (6/21)					理事会 (11/13)				
私大図協	常任 幹事会 (4/13)				総会 (8/30)				常任 幹事会 (12/7)			
公大図協			拡大 役員会 (6/6,7)					拡大 役員会				